

マイナンバー制度を利用した犯罪0の社会へ
(実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 赤阪, 夢久, 飯田, 悠太, 中島, 穂野香, 伊藤, 勇樹, 遠藤, 裕斗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027428

マイナンバー制度を利用した犯罪 0 の社会へ

赤坂夢久(情報科学科), 飯田悠太(情報社会学科), 中島穂野香(情報社会学科), 伊藤勇樹(情報科学科), 遠藤裕斗(情報科学科)

日本では, 2016 年に行政手続きの簡略化を目的にマイナンバー制度が施行された。しかし, マイナンバーカードの国民への普及率は, 2019 年時点で 14%と低い現状である。今後マイナンバー制度がどのような変遷をたどるのか, 文献をもとに調査を行い, 予測を立てた。調査の結果, 諸外国の国民識別番号の普及率は日本より高く, 高度なテクノロジーが活用されている。インドの国民識別番号であるアドhaarは一人一人の指紋情報や虹彩情報が番号と紐付いている (Saurabh et al., 2013, Int J Comput Appl)。

この調査結果に基づき, 我々はマイナンバー制度の普及案と, マイナンバー制度を利用した犯罪防止システムを提案する。犯罪防止システムの一例として, SNS とマイナンバーのリンクが挙げられる。日本で, マイナンバーと紐付いた公的なメールアドレスを与えることで, SNS などのウェブサービス内で生じる犯罪の抑止に一定の効果が期待できる。

(学習マネジメント,担当教員:宮崎真)